

酪農・豆知識 第 84 号

最近の酪農経営の動向(平成 25 年)

農林水産省は 7 月 2 日「畜産統計」(平成 25 年 2 月 1 日現在)を公表しました。農林水産省の「牛乳乳製品統計」とあわせて最近の酪農経営の動向を見てみました。今年のトレンドは、ここ数年と同じく規模拡大、高泌乳化、生乳生産量の低迷のようです。

1. 酪農家戸数

全国の酪農家戸数は減少傾向が続いており、平成 25 年 2 月 1 日現在 1 万 9,400 戸で前年同期に比べ 700 戸(3.5%)減少し、「2 万戸」台をついに割り込み、「1 万戸」台時代に入りました。

酪農家戸数は昭和 38 年の 41 万 7,640 戸をピークに減少が続いていますが、近年酪農家戸数減少のスピードは鈍化し、2 万戸台は前年まで 10 年間維持してきました。

これを都道府県別に見ると、北海道が 7,130 戸(前年比 1.9%減)、岩手が 1,180 戸(4.8%減)で、前年に続き「1,000 戸」以上はこの 2 道県のみです。3 位は前年と同様、栃木の 876 戸(5.0%減)でしたが 900 戸割れになりました。4 位は千葉の 838 戸(4.0%減)。5 位は群馬の 666 戸(2.3%減)でした。

なお都府県合計は 1 万 2,200 戸(4.7%減)となり、前年からの減少幅を 0.5 ポイント縮小、全国に占める割合は 62.9%で、前年に比べ 0.8 ポイント低下しました。

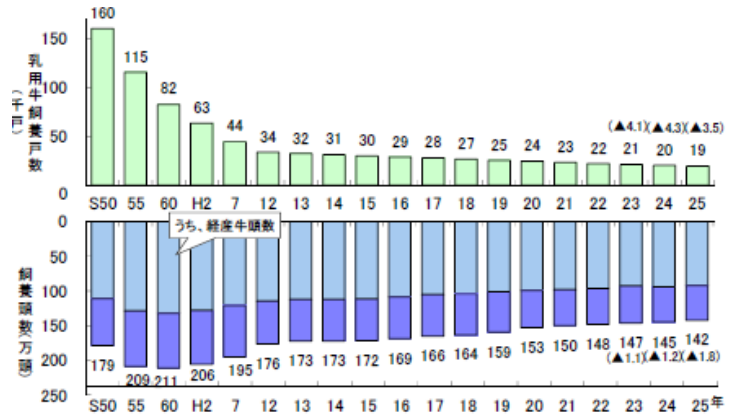


図1 酪農家戸数及び飼養頭数の推移

2. 飼養頭数

乳牛飼養頭数(メス牛)は、平成 25 年 2 月 1 日現在 1,423,000 頭で 26,000 頭(1.8%)減と 03 年以降 11 年連続の減少となりました。

これを都道府県別に見ると、北海道が 806,800 頭で 1.8%減と、前年の 0.7%減に続き 2 年連続で減少しています。都府県合計は 616,600 頭で 1.7%減と前年の 1.9%減から減少幅を縮小したものの依然低下傾向にあります。ただし鹿児島 2.5%増、山梨 2.4%増、島根・宮崎 2.0%増、熊本 1.1%増、栃木・広島 0.9%増と 7 県で前年より増えています。都府県で飼養頭数が最も多いのは、酪農家戸数全国 3 位に位置する栃木の 53,500 頭で、前年並みだった昨年度から 0.9%増に回復しました。次いで戸数 2 位の岩手が 45,500 頭で 0.7%減(前年 2.3%減)、戸数 6 位の熊本が 44,800 頭で 1.1%増(前年 1.6%増)、戸数 5 位の群馬が 38,400 頭で 0.3%減(前年 1.8%減)、戸数 4 位の千葉が 36,200 頭で 2.9%減(前年 2.9%減)の順となっています。

3. 1 戸当たりの経産牛飼養頭数

一戸当たり経産牛頭数は北海道では横ばい、都府県では前年を上回りました。全国平均は 47.6

頭で 1.7 頭増加しました。これを都道府県別に見ると、北海道は戸数減少(1.9%減)に対し、飼養頭数もほぼ同率の 1.8%減となったことから、1戸当たり経産牛飼養頭数は 68.1 頭と前年に比べ 0.1 頭の増加にとどまっています(前年は 4.2 頭増加)。都府県は戸数減少(4.7%減)よりも頭数減少(1.7%減)が少なかったため、1戸当たり飼養頭数は 35.9 頭で前年から 1.0 頭増加(前年 1.3 頭増加)と 5 年連続の増加です。

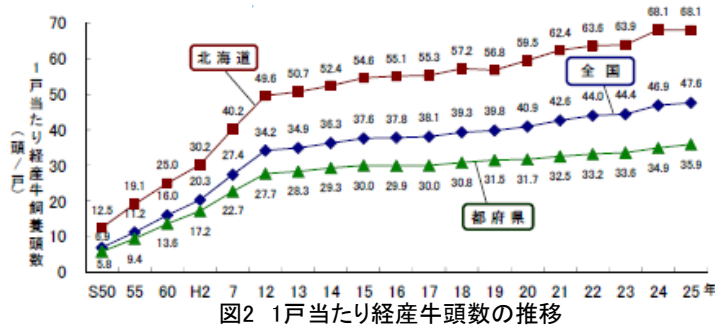


図2 1戸当たり経産牛頭数の推移

経産牛に育成牛等を加えた飼養頭数全体で見ると、全国平均で 73.4 頭と、前年度から 1.3 頭(1.8%)増加しました。これを都道府県別に見ると、北海道は 113.2 頭で 0.1 頭(0.1%)増とほぼ前年度並みとなった一方、都府県平均は 50.5 頭で 1.5 頭(3.1%)増となり、初の 50 頭台に乗りました。都府県のトップは前年度同様に三重で、前年度から 6.0 頭(5.9%)増加の 108.0 頭となり、都府県初の 100 頭台となりました。

4. 経産牛一頭当たり乳量

経産牛一頭当たり乳量は毎年増加傾向で推移しています。22・23年度は22年の猛暑の影響等により減少しましたが、24年度は再び増加に転じています。

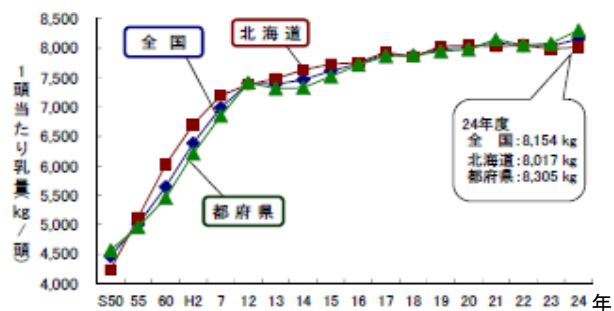


図3 経産牛一頭当たり乳量の推移

5. 生乳生産量

生乳生産は平成9年度以降概ね減少傾向で推移しています。22年度は猛暑、東日本大震災の影響で 3.2%減と過去最大級の減少幅を記録しました。翌 23年度も 1.3%減と減少が続いていましたが、24年度は 7年ぶりの増加に転じています。22~23年度に生乳生産量が全国的に減少したことから、生産者団体は、生乳生産基盤の安定・強化を図るため、23年度は増産型の計画生産を実施しました。24年度からは 3年間減産を行わない中期計画生産への取組が進み、25年度においても、前年実績比 101.3%の増産型の計画生産を実施しています。この結果、23年度は前年比 1.3%減少しましたが、24年度は、前年比 1.0%の増加がみられました。地域別には、23年度北海道では 0.1%、都府県では 2.5%減少しましたが、24年度には、北海道では 0.9%、都府県では 1.0%増加しています。25年度(4-6月)は、前年同期比で 0.2%減少をしています。地域別には、北海道では 0.8%の増加に対し、都府県では 1.2%の減少です。

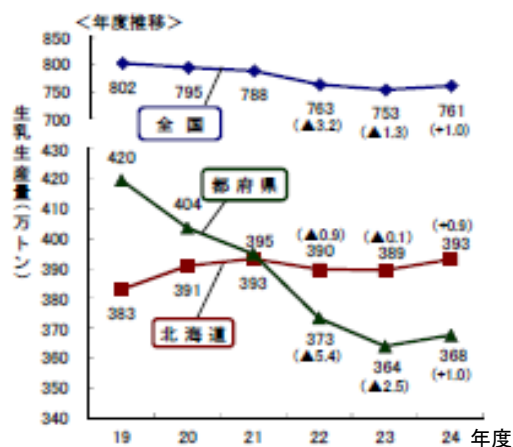


図4 生乳生産量の推移

乳牛飼養頭数(メス牛)は、平成 25 年 2 月 1 日現在 1,423,000 頭で 26,000 頭(1.8%)減と 03 年以降 11 年連続の減少となりました。